

子どもの貧困支援に学校と地域で出来ること

幸重社会福祉士事務所 代表 幸重忠孝

本日の発表について

- スクールソーシャルワーカー(滋賀県教育委員会)としての経験から
- NPO(特定非営利活動法人山科醍醐こどものひろば前理事長)や社会福祉協議会(大津市社会福祉協議会)とはじめた子どもの貧困対策の経験から

子どもの貧困を子どもの視点で考える事例から

- YouTube「貧困を背負って生きる子どもたち 仁の物語・智の物語」より
- 生活支援を必要とする子どもたちの姿と必要な支援について
 - ・家庭や学校、地域での生活に安心安全がないと教育支援や就労支援に乗れない
 - ・生活支援はコーディネートに専門性は必要だが直接支援は市民であるべき
- 先駆的に貧困を抱える子どもの生活支援に取り組む民間団体の実践紹介
 - ・楽習サポートのびのび(京都: NPO 法人山科醍醐こどものひろば)
 - ・ホッとステーション事業(滋賀: 大津市社会福祉協議会×幸重社会福祉士事務所)
 - ・コミュニティハウス冬月荘(北海道: NPO 法人地域生活支援ネットワークサロン)
 - ・ごちハウス(福岡: 一般社団法人ストリートプロジェクト)
 - ・夜間サテライト事業(大阪: NPO 法人西淀川子どもセンター)
 - ・宿題クラブコペルくん(和歌山: NPO 法人白浜レスキューネットワーク)
 - ・寺子屋おーぷん・どあ(静岡: 川口社会福祉士事務所)

提言

- 貧困課題を抱える子どもたちが利用できる地域での生活支援のための居場所づくり
 - ・NPO や社会福祉協議会など民間団体の活用
 - ・児童館や学童保育でのオプション事業として考える
 - ・既存の子育て支援サロンや高齢者サロンなどに組み込んでいく
- 学校現場に「子どもの貧困」の視点を入れる
 - ・スクールソーシャルワーカーの活用(量と質を高めていく)
 - ・教員養成課程や現職教員研修に「子どもの貧困」を学ぶ科目・項目を盛り込む
 - ・学校と地域をつなぐ仕組みづくり(放課後子どもプランへ組み込む)